

小林市文化財調査報告書第8集

いで  
出の山地区遺跡  
ほんた  
本田地区遺跡(1次)  
いちだに  
市谷地区遺跡



平成6年度市内遺跡発掘調査事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1995. 3

宮崎県小林市教育委員会

## 序

小林市は、宮崎県の南西部、霧島火山の麓にあり、古くは日向国十六駅の一つである夷守駅の所在地に比定されるなど、歴史と伝説を残す町です。現在は花と星空と湧水の美しい田園観光都市として発展を続けています。

当市では、年々増加する開発事業から文化財を保護するため、文化庁、県教育委員会の補助を受けて、今年度は市内3か所の試掘調査を実施しました。その結果、本田地区では縄文時代早期の集石遺構が発見され、また、市谷地区では弥生時代の土器が出土しました。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層のご理解をいただければ幸いです。

最後に、調査にあたり、ご指導、ご協力いただきました宮崎県文化課の方々をはじめ、踏査、試掘等に快くご協力くださいました地元の方々、また調査、整理作業に従事くださいました皆様に対して厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

小林市教育委員会

教育長 濑戸口 克彦

## 例 言

1. 本書は、小林市教育委員会が平成6年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
  2. 本年度は、出の山地区遺跡、本田地区遺跡、市谷地区遺跡の発掘調査を実施した。
  3. 調査の組織は次のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教育長瀬百口吉彦

社会教育課長 黒木英夫

社会教育係長 原口勝年

主事坊蘭論子

謂 李 員 由 村 真由美

調查據助員

整理作業圖

調查指導 富蘭恩文化課

主任主事 永友良典

4. 本書に使用した遺物の実測、トレース、拓本及び図面の作成については、中村真由美、[REDACTED]が担当した。
  5. 現場及び遺物の写真撮影は中村が担当した。
  6. 本書の執筆、編集は中村が担当した。
  7. 遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の新版標準土色帖による。  
方位は磁北である。また、レベルは海拔絶対高である。
  8. 出土した遺物は中央公民館で保管している。

# 目 次

○序.....	1
○例言.....	2
○目次.....	3
○第1章 はじめに.....	5
1. はじめに.....	5
2. 小林市の地理的、歴史的環境.....	6
○第2章 調査の記録.....	8
1. 出の山地区.....	8
(1) 位置と環境.....	8
(2) 調査に至る契機.....	8
(3) 調査の概要.....	8
2. 本田地区（第1次）.....	9
(1) 位置と環境.....	9
(2) 調査に至る契機.....	9
(3) 調査の概要.....	10
3. 市谷地区.....	17
(1) 位置と環境.....	17
(2) 調査に至る契機.....	17
(3) 調査の概要.....	17

# 挿 図 目 次

○第1図 市内遺跡発掘調査地点位置図.....	5
○第2図 出の山地区発掘調査地点位置図.....	8
○第3図 本田地区発掘調査地点位置図.....	9
○第4図 本田地区1区トレンチ位置図.....	10
○第5図 本田地区基本層序.....	11
○第6図 本田地区1区石器実測図.....	11
○第7図 本田地区3区トレンチ位置図.....	12
○第8図 本田地区3区石器実測図(1).....	13

○第9図	本田地区3区石器実測図(2).....	14
○第10図	本田地区3区土器実測図.....	15
○第11図	市谷地区発掘調査地点位置図.....	17
○第12図	市谷地区基本層序.....	18
○第13図	市谷地区2区トレンチ位置図.....	18
○第14図	市谷地区3区トレンチ位置図.....	19
○第15図	市谷地区4区トレンチ位置図.....	19
○第16図	市谷地区5区トレンチ位置図.....	20
○第17図	市谷地区5区土器実測図.....	21
○表1	本田地区石器観察表.....	15
○表2	本田地区土器観察表.....	16
○表3	市谷地区土器観察表.....	21

## 図 版 目 次

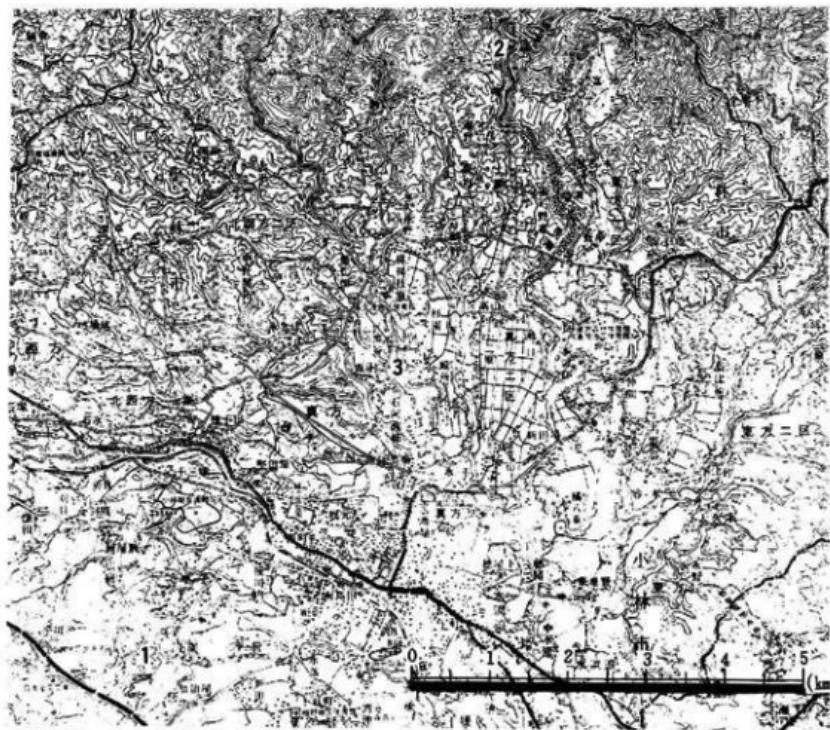
○図版1	本田地区遠景.....	23
○図版2	本田地区作業風景.....	23
○図版3	本田地区1区1トレンチ.....	24
○図版4	本田地区1区集石遺構.....	24
○図版5	本田地区3区1トレンチ.....	25
○図版6	本田地区3区2トレンチ.....	25
○図版7	本田地区3区3トレンチ.....	26
○図版8	本田地区3区炉跡.....	26
○図版9	本田地区出土遺物（石核、石鎌）.....	27
○図版10	本田地区出土遺物（石皿、石斧）.....	27
○図版11	本田地区出土遺物（縄文土器）.....	28
○図版12	市谷地区出土遺物（弥生土器）.....	28

# 第1章 はじめに

## 1. はじめに

小林市は、宮崎県の南西部に位置し、人口はおよそ4万1千人である。浜ノ瀬川上流の三之宮渓谷、コスモスの咲き乱れる生駒高原など豊かな自然に恵まれ、県内有数の観光地として知られている。しかし、近年観光客数が減少しており、これを解消し、集客増加に向けて交通網、施設等の整備、開発が進められている。また、圃場整備や畠地灌漑整備事業などの農業基盤の整備も進められている。

これらの諸開発事業と埋蔵文化財の保護との調整に資するため、本年度は下記の3ヶ所で発掘調査を実施した。



第1図 市内遺跡発掘調査地点位置図 (縮尺 5万分の1)

1. 出の山地区 2. 本田地区 3. 市谷地区

## 2. 小林市の地理的・歴史的環境

### ○地理的環境

小林盆地は、北を四万十層群からなる裏日向山地、西を加久藤溶結凝灰岩からなる溶灰岩台地に、また南を霧島火山群によって囲まれている。地形は、北部の四万十層群を基盤とする扇状地と、南部の霧島火山の溶岩流末端から形成された新旧の扇状地、および海拔 200m 前後のシラス台地とかなり、盆地底の大部分はシラス台地とそれが浸食されて形成された段丘からなり、最低位に氾濫原性低地がかなり発達している。河川は、盆地内を石水川などの小河川が流れ、合流して大淀川の支流岩瀬川となって東流し、西部では川内川支流の池島川が西流する。また、市内には湧水も多く、約50ヶ所点在する。<sup>1)</sup>

### ○歴史的環境

小林市内の遺跡は、平成4、5年度実施の市内遺跡詳細分布調査では163ヶ所確認されている。<sup>2)</sup>

次に、これまで調査・報告されている遺跡について、時代別に概略を挙げる。

旧石器時代の遺跡は、横峰迫（大字南西方字横峰迫）で黒曜石製の打製石器が採集されている。<sup>3)</sup>

縄文時代の遺跡は、本田遺跡<sup>4)</sup>（大字東方字坂ノ下）、山中前遺跡<sup>5)</sup>（大字細野字山中前）、鬼塚遺跡<sup>6)</sup>（大字南西方字鬼塚）、こまくりけ遺跡<sup>7)</sup>（大字細野字出の山）などがある。なかでも本田遺跡は、前期の住居としては県内唯一であり、県指定を受けている。

弥生時代の遺跡の調査例としては、鬼塚ヒレ原遺跡<sup>8)</sup>（大字南西方字ヒレ原）の掘立柱建物跡がある。そのほか東方、永久津、南西方で石包丁が出土しており、また、小林小学校所蔵の重弧文土器片が知られている。

古墳時代の遺跡例は、地下式横穴墓が東二原<sup>9)</sup>（大字真方字東二原）、下の平<sup>10)</sup>（大字水流迫字下の平）、新田場<sup>11)</sup>（大字真方字新田場）、尾中原<sup>12)</sup>（大字北西方字尾中原）等で確認されている。また、水落<sup>13)</sup>（大字細野字水落）、平木場遺跡<sup>14)</sup>（大字南西方字平木場）では住居跡が調査されている。

歴史時代では、日向国16駅の一つ、夷守駅所在地が大字細野字夷守に比定されている。<sup>15)</sup> 平安時代の遺跡としては、竹山遺跡<sup>16)</sup>（大字細野字竹山）、こまくりけ遺跡から布痕土器などが出土している。中世の山城では、三山城（大字細野字城山）、小林城（大字真方字下の馬場）、内木場城（大字東方字内木場）、野首城（大字東方字野首）、岩牟礼城（大字東方字城ヶ迫）<sup>17)</sup>などがあり、古石塔群が穂屋

下（大字真方字穂屋下）、大久津（大字東方字大久津）、下り（大字東方字下り）にある。近世では、水落遺跡で江戸時代の墓が検出されている。

#### 〈参考文献〉

- 1) 経済企画庁総合開発局「土地分類図（宮崎県）」 1974
- 2) 中村真由美「市内遺跡詳細分布調査報告書」「小林市文化財調査報告書」第7集 小林市教育委員会 1994
- 3) 2) 同じ
- 4) 鈴木重治「本田遺跡」「宮崎県史 資料編 考古1」宮崎県 1989
- 5) 石川恒太郎「中山ノ前住居跡」「宮崎県の考古学」吉川弘文館 1968  
※報告には「中山ノ前」とあるが、実際の字名は「山中前」であり、本書では後者を用いた。
- 6) 中村真由美「鬼塚遺跡」「小林市文化財調査報告書」第3集 小林市教育委員会 1991
- 7) 田中 茂「こまくりげ遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告」(1) 宮崎県教育委員会 1973
- 8) 中村真由美「鬼塚ヒレ原遺跡」「小林市文化財調査報告書」第4集 小林市教育委員会 1992
- 9) 永友良典・長友郁子・面高哲郎「東二原地下式横穴墓群・下の平地下式横穴墓群」「小林市文化財調査報告書」第6集 小林市教育委員会 1993
- 10) 9) 同じ
- 11) 面高哲郎・長津宗重「新田場地下式横穴墓群」「宮崎県文化財調査報告書」第34集 宮崎県教育委員会 1991
- 12) 石川恒太郎「尾中原地下式古墳」「地下式古墳の研究」帝国地方行政学会 1973
- 13) 長津宗重・長友郁子「水落遺跡」「小林市文化財調査報告書」第1集 小林市教育委員会 1990
- 14) 安楽 勉「平木場遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告」(1) 宮崎県教育委員会 1973
- 15) 藤岡謙二郎「日向国」「古代日本の交通路IV」大明堂 1979
- 16) 5) 同じ
- 17) 平部崎南『日向地誌』 1884

## 第2章 調査の記録

### 1. 出の山地区（大字南西方字出の山）

#### (1) 位置と環境

この地区は、小林市街より南西に約3kmに位置し、市内の主要水源である出の山池がある。標高は約260mである。池周辺の丘陵上には平川遺跡、こまくりげ遺跡などがある。

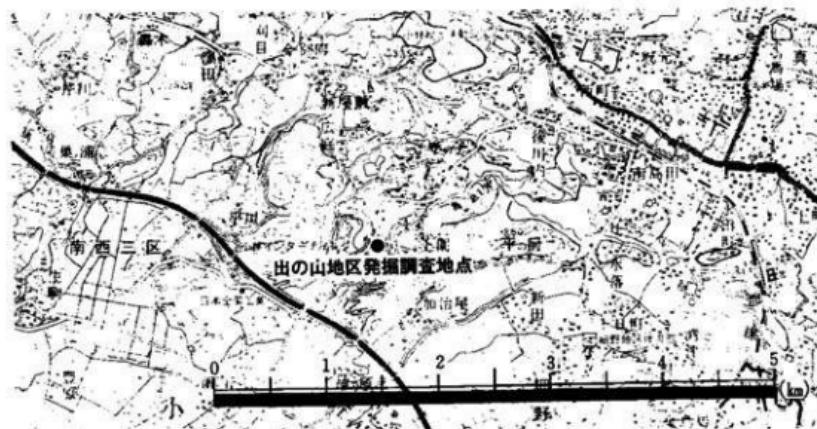
#### (2) 調査に至る契機

出の山池は環境庁の全国名水百選の1つで、初夏には10万匹のゲンジボタルの乱舞が見られる。ここに淡水魚水族館の建設設計画があるため、市耕地課からの依頼で予定地の試掘調査を実施した。

#### (3) 調査の概要

調査地の現況は原野である。

調査は平成6年4月26、27日に実施した。1.5m×10mのトレンチを3ヶ所設定し、深さ約2.5m（カシワバッサン層）まで掘削した。一部アカホヤ層に及ぶ擾乱が見られたが、土層の状態はおおむね良好であった。しかし、今回の調査では遺構、遺物ともに確認できなかった。



第2図 出の山地区発掘調査地点位置図（縮尺 5万分の1）

## 2. 本田地区（大字東方字坂ノ下）

### (1) 位置と環境

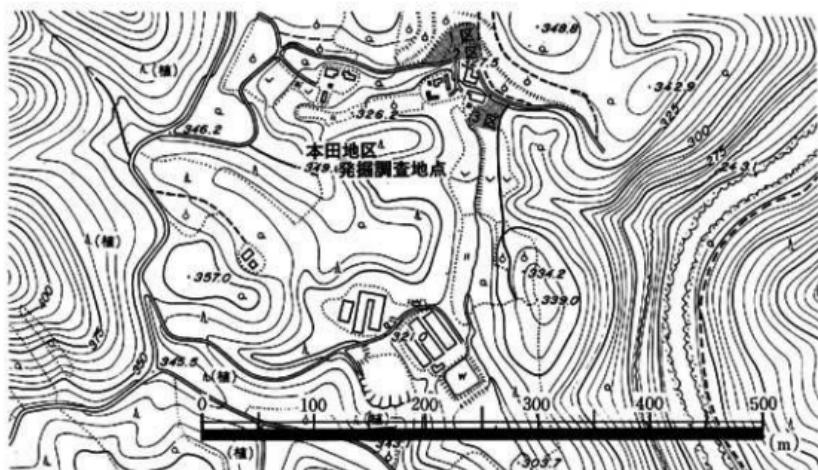
この地区は、市内北東部に位置し、市北境の裏日向山地から連なる丘陵を南流する浜の瀬川、谷の木川（大淀川支流）が浸食し、複雑な谷を形成している。遺跡は、浜の瀬川、谷の木川沿岸のほとんどの台地上で確認されている。本田遺跡は、市街より北東に約10km、浜の瀬川上流西岸の小丘陵上に立地する。

### (2) 調査に至る契機

本田遺跡は、縄文時代早期から後期にかけての遺跡で、昭和41（1966）年に発掘調査が行われ、竪穴住居の柱穴や炉跡、土壙墓などが発見された。遺物は、押型文（縄文時代早期）、前平式・曾畠式（前期）、西平式（後期）等の土器と石鏃、石斧、石槍等の石器が多数出土した。県内で初めて押型文→轟式→曾畠式の層位関係が確認され、昭和51（1976）年に県の史跡として指定された。県内外から研究、史跡巡り、観光の場として訪れる見学者も多い。

現在本市では、県の緑地環境保全地域の指定を受けており、浜の瀬川沿岸の観光開発が計画されている。この観光拠点に本田遺跡も含まれているが、施設等の老朽化が進んでおり、保存整備する必要に迫られている。

今回は指定地周辺の畠地3ヶ所で試掘調査を実施した。



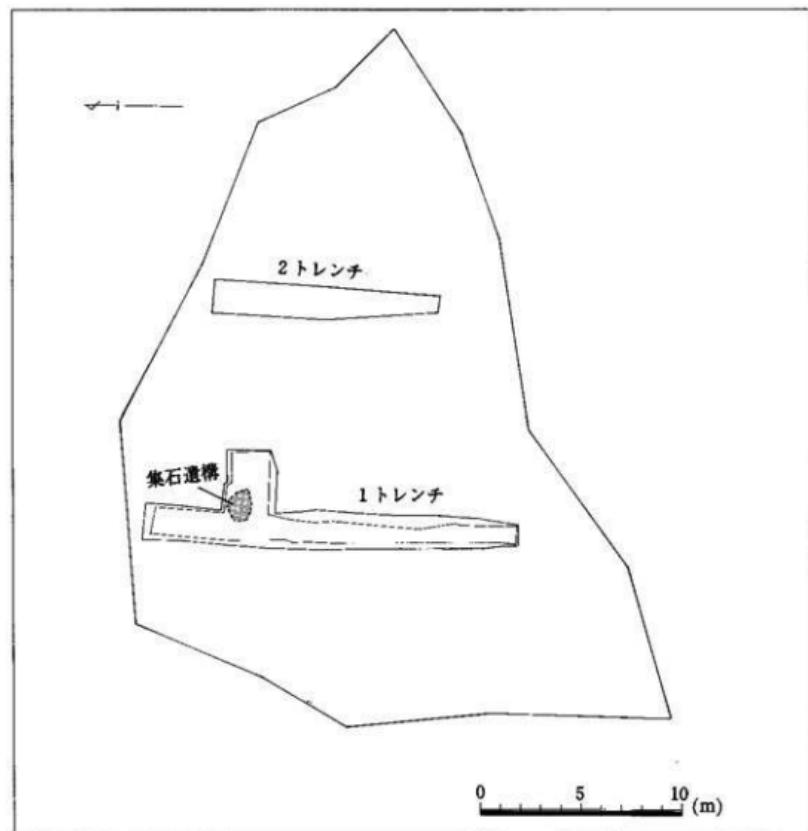
第3図 本田地区発掘調査地点位置図（縮尺 5千分の1）

### (3) 調査の概要

調査地の現況は、畠地である。

調査は平成7年2月13日～平成7年2月16日に実施した。調査地は3ヶ所で、それぞれ1～3区とし、計6本のトレンチを設定した。

調査の結果、1区では縄文時代早期の集石遺構が、3区では散石遺構と炉跡が検出された。2区については、攪乱を受けており、遺構は確認できなかったが、チャート製の剥片を数点表探した。

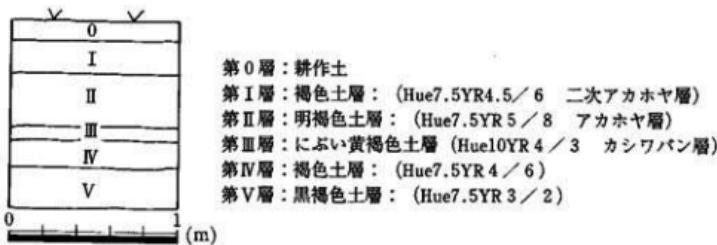


第4図 本田地区1区トレンチ位置図

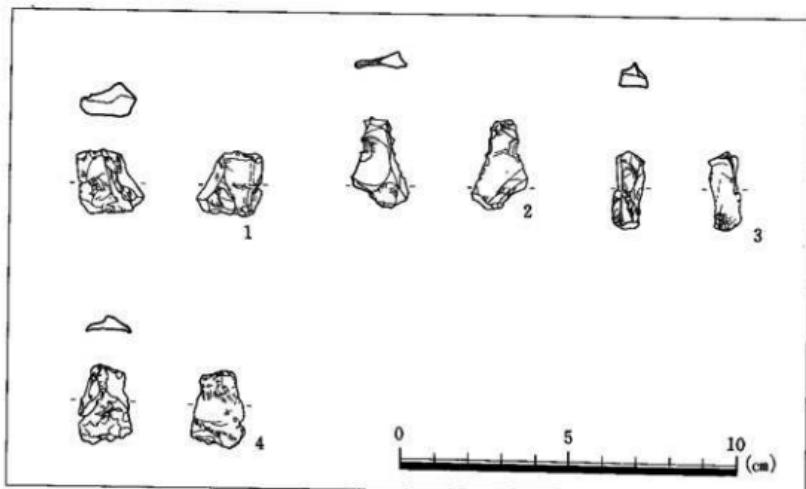
## 1区調査

土層は、開墾によってアカホヤ層まで一部削平されており、縄文時代前期以降の遺跡は確認できなかった。

早期の遺跡については、Ⅲ層の黒色土より集石遺構1基と遺物の散布がみられた。集石遺構は主に角礫を使用していた。遺物は、石核、剝片、土器片等が出土した。



第5図 本田地区基本層序



第6図 本田地区1区石器実測図

## 2区調査

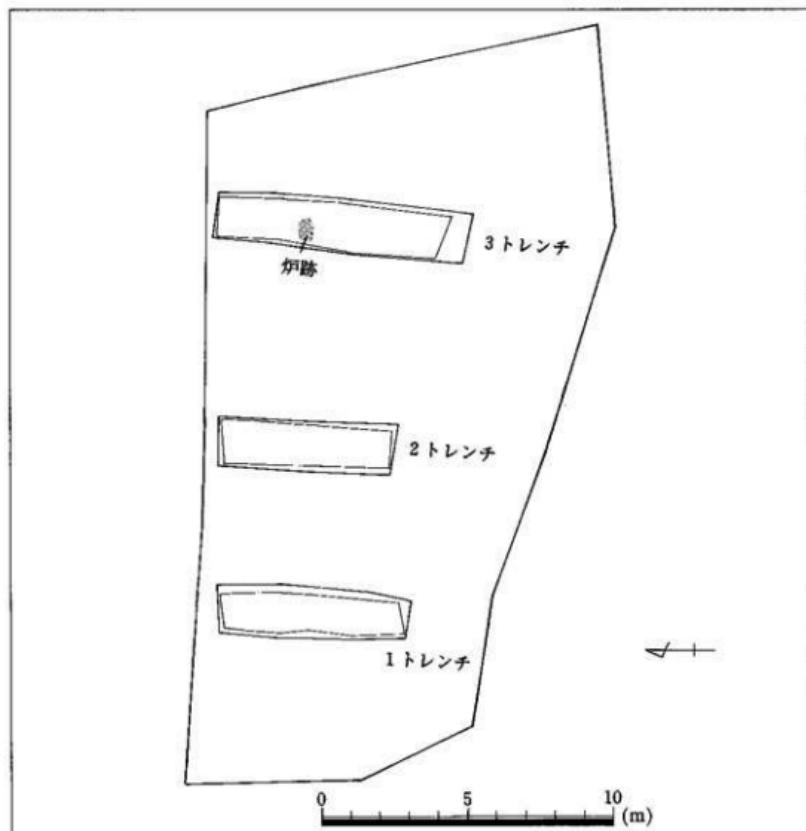
上述のとおり

### 3区調査

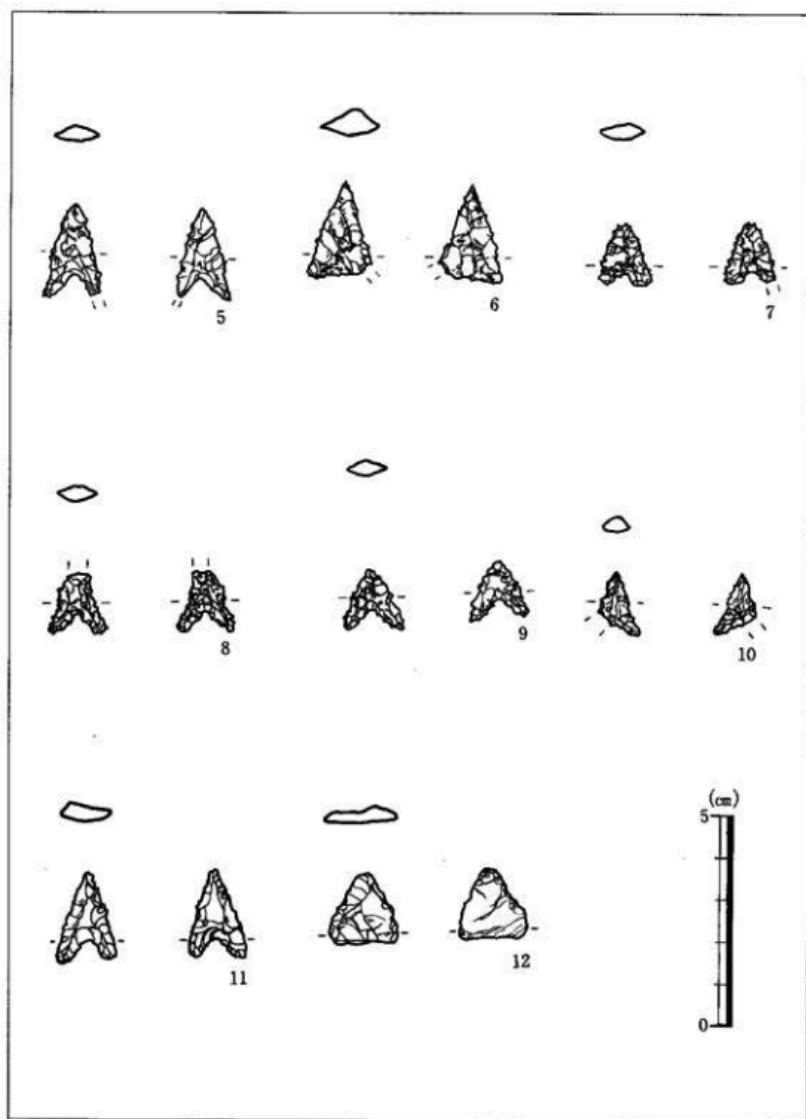
3区ではトレンチを3本設定した。

1トレンチでは、既にアカホヤ層まで攪乱されていたが、Ⅲ層より主に角礫から成る散石が検出された。

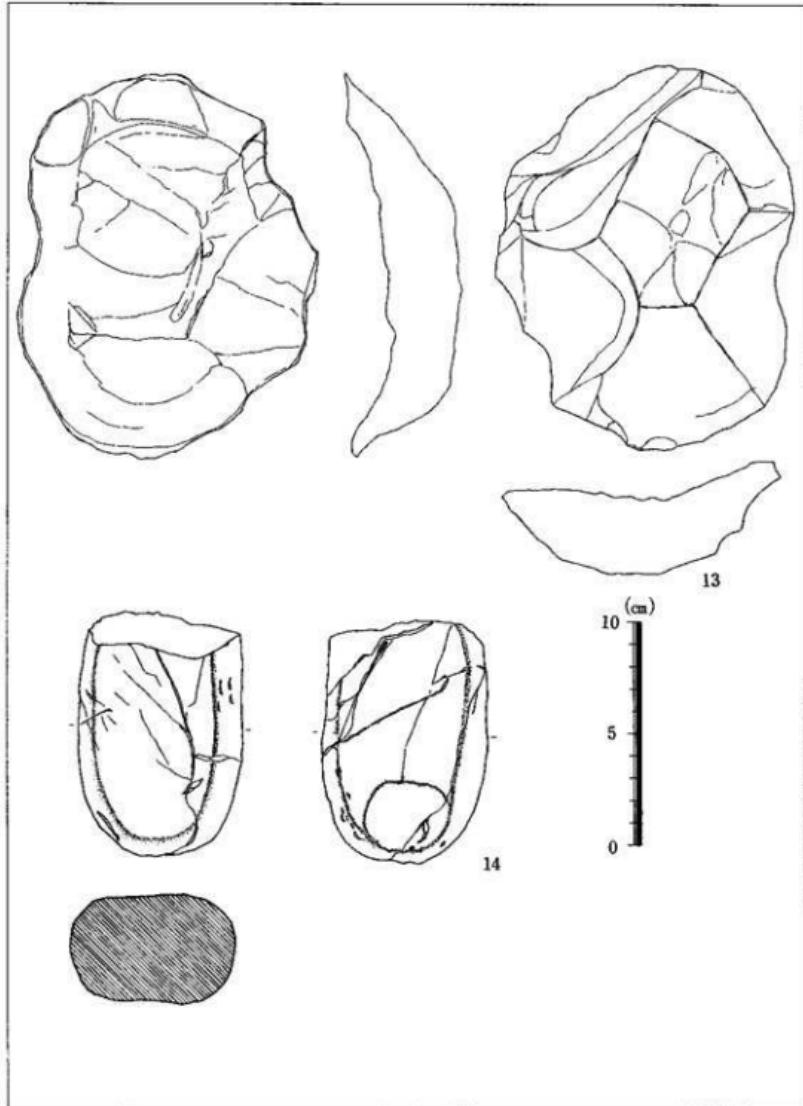
2、3トレンチでは、アカホヤ層上面よりチャート製を主とする石礫、石核、剝片が多数出土した。土器は、深鉢の底部と穿孔のある胴部破片が出土した。なお、3トレンチでは、炉跡と見られる焼成跡が検出された。



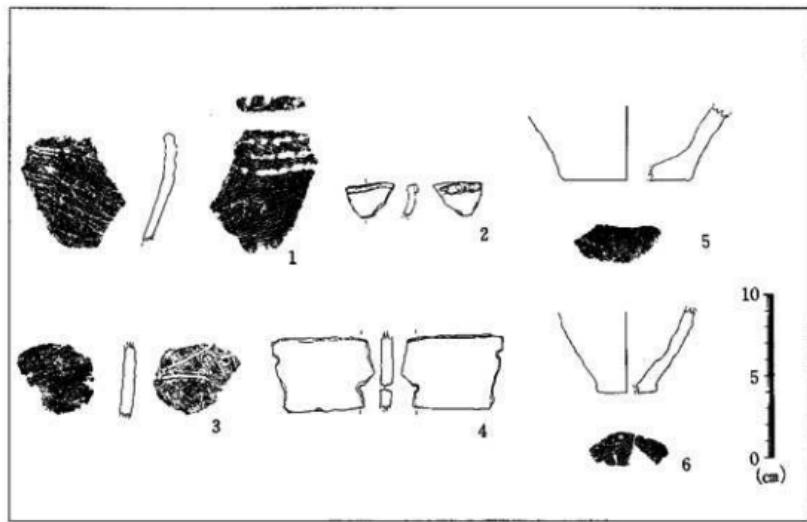
第7図 本田地区3区トレンチ位置図



第8図 本田地区3区石器実測図(1)



第9図 本田地区3区石器実測図(2)



第10図 本田地区3区土器実測図

No	種類	出土	出土層	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1	石核	1区	IV層	1.8	1.9	1.0	4.1	黒曜石	
2	石鎌	1区	IV層	2.8	1.7	0.4	1.4	チャート	未製品
3	石核	1区	IV層	2.3	0.75	0.7	1.7	黒曜石	
4	石核	1区	IV層	2.35	1.4	0.35	1.4	黒曜石	
5	石鎌	3区	I層	2.2	1.35	0.4	0.9	チャート	
6	石鎌	3区	I層	2.4	1.4	0.6	1.3	チャート	
7	石鎌	3区	I層	1.45	1.25	0.35	0.5	黒曜石	
8	石鎌	3区	I層	1.4	1.35	0.4	0.5	チャート	
9	石鎌	3区	I層	1.45	1.4	0.35	0.4	チャート	
10	石鎌	3区	I層	1.5	1.0	0.35	0.3	チャート	
11	石鎌	3区	I層	2.15	1.45	0.4	0.8	泥岩	
12	石鎌	3区	I層	1.6	1.6	0.35	1.0	チャート	未製品
13	石皿	3区	I層	34.3	28.8	4.4	2500	安山岩	
14	石斧	3区	I層	20.8	7.3	4.9	606	安山岩	

表1 本田地区石器観察表

No	器種	部位	出土区	出土層	測定および文様		地 土	塊成	色 調		備 考
					外	内			外	内	
1	漆鉢	口縁部	3区	I層	ハケ	ハケ 口唇部…刻目	径1mm前後の砂粒含む	良好	灰褐色 Hue7.5YR4/2	明赤褐色 Hue5YR5/6	
2	鉢	口縁部	3区	I層	ナデ	ハケ 口唇部…刻目突起	径0.5mm前後の砂粒含む	良好	Hue10YR6/4	明黄褐色 Hue10YR6/6	
3	漆鉢	腹部	3区	I層	ハケ	ハケ 径2mmの沈堆	良好	良好	Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/6	
4	漆鉢	腹部	3区	I層	丁寧なナデ	丁寧なナデ 径1mmの沈堆 空孔	良好	良好	黄褐色 Hue2.5YR5/1	黄灰色 Hue2.5YR4/1	
5	漆鉢	底部	3区	I層	ナデ	ハケ	径1mm前後の砂粒含む	良好	Hue5YR5/6	黑褐色 Hue5YR2/1	塊成底有
6	漆鉢	底部	3区	I層	ハケ ナデ	ハケ	径1mm前後の黒く光る砂 粒含む	良好	Hue10YR7/3	褐灰色 Hue10YR4/1	外底部白 <朱色

表2 本田地区土器観察表

### まとめ

今回の調査では、縄文時代早期、前期の包含層を確認することができた。試掘調査前に予想していた烟の開墾、造成による遺跡の破壊はさほどなく、一部搅乱が見られるものの、包含層の残存状態は良好であった。

遺構については、本地区では今回初めて集石遺構を検出した。今後周辺地区で発見が続くことが期待される。

本田遺跡周辺の調査は来年度も継続して実施する予定である。

### 3. 市谷地区（大字真方字市谷ほか）

#### (1) 位置と環境

この地区は、小林市街地より北に約2.5kmに位置し、南流する真方川が河岸段丘を形成している。標高は200m前後である。周囲の台地上には保楊枝原遺跡、正覚原遺跡などがある。

#### (2) 調査に至る契機

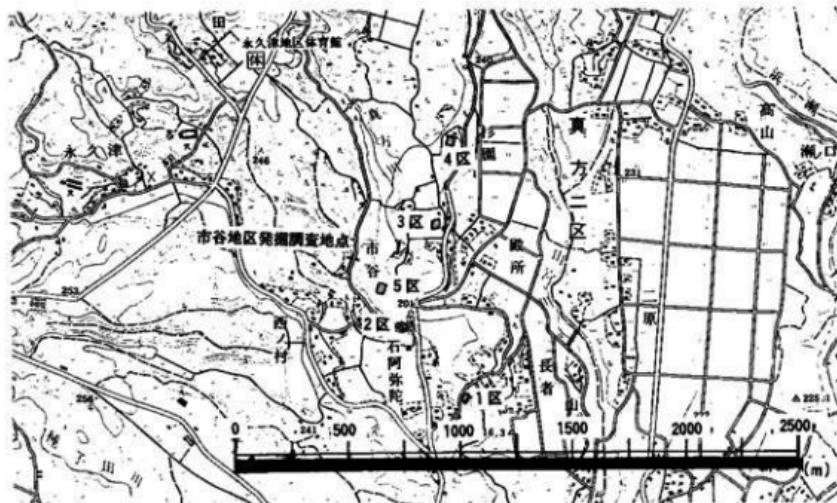
この地区では平成7年度より県営圃場整備事業が計画されている。このため、市耕地課からの依頼で予定地の試掘調査を実施した。

#### (3) 調査の概要

調査地は水田である。

調査は平成7年2月20日～2月22日に実施した。調査地は5ヶ所で、それぞれ1～5区とし、計7本のトレンチを設定した。

調査の結果、2～5区から弥生土器片が出土した。1区は攪乱されており、遺物、遺構とも発見されなかった。遺物については、特に5区からの出土が多かったが、遺構等は検出されなかった。



第11図 市谷地区発掘調査地点位置図（縮尺 5万分の1）



第12図 市谷地区基本層序

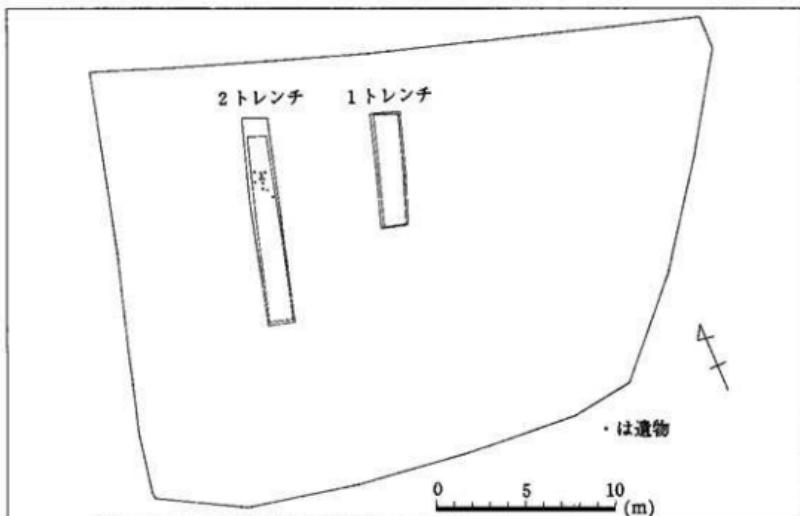
1区調査 上述のとおり

2区調査

2区ではトレンチを2本設定した。

1トレンチでは、東側1／3でアカホヤ層上面より弥生土器細片が数点出土した。  
 西側は既に搅乱されていた。

2トレンチは、カシワバン層まで搅乱されていた。

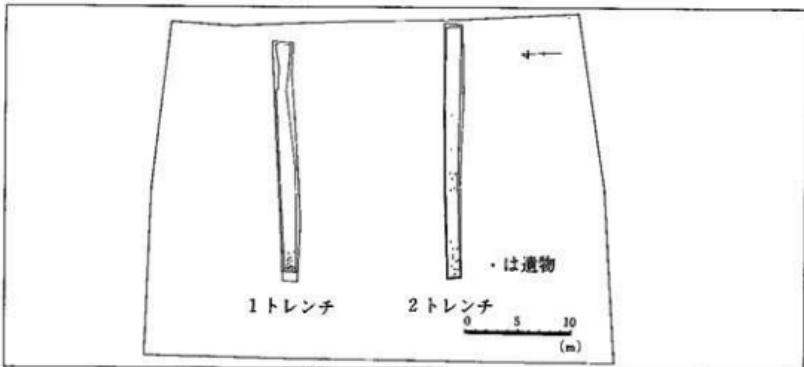


第13図 市谷地区2区トレンチ位置図

### 3区調査

3区ではトレンチを2本設定した。

1、2トレンチとも、東側2／3がアカホヤ層まで搅乱を受けており、遺物の出土は西側からであった。弥生土器片が出土している。

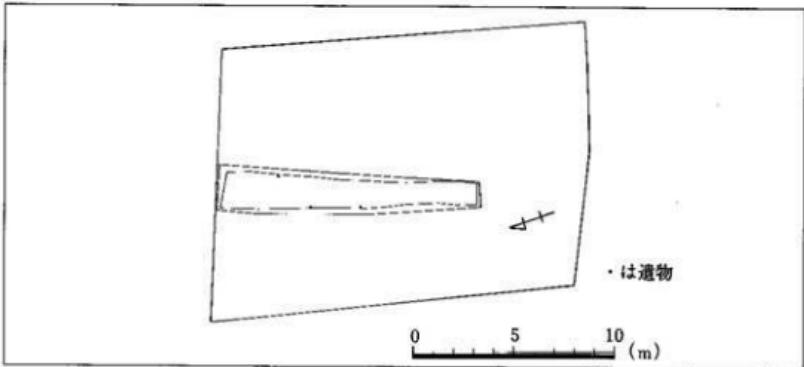


第14図 市谷3区トレンチ位置図

### 4区調査

4区ではトレンチを1本設定した。

4区は、地表からアカホヤ層まで約1mと、他の地点と比べかなり深く、土層の残存状態は良好であった。弥生土器片が3点、いずれも黒色土から出土している。

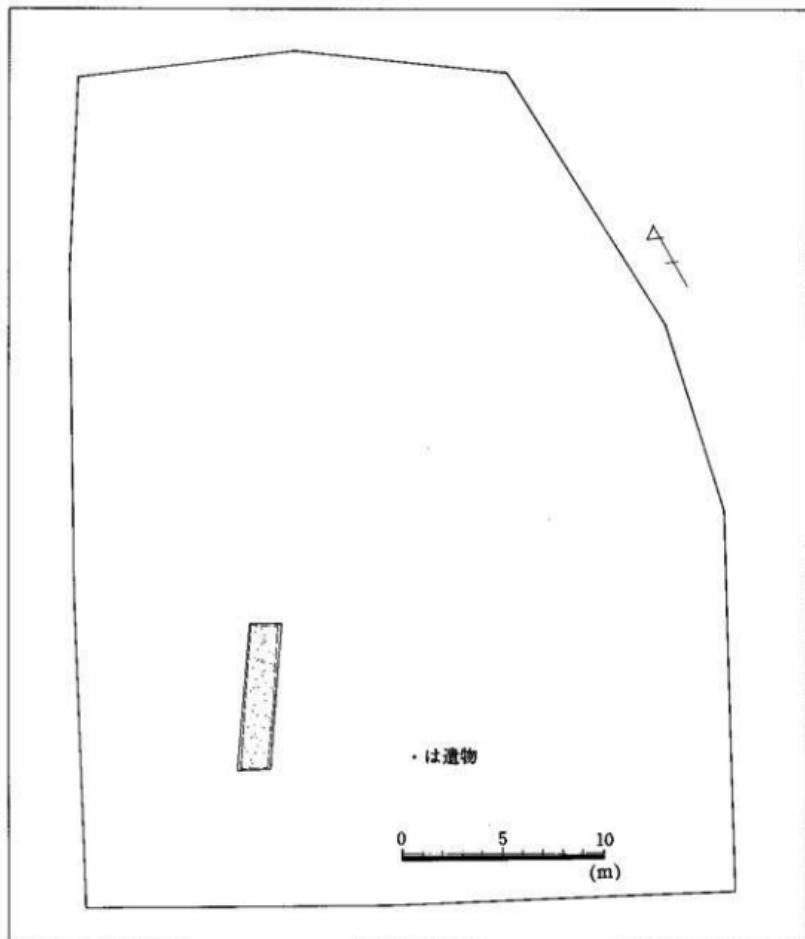


第15図 市谷地区4区トレンチ位置図

## 5区調査

5区ではトレンチを1本設定した。このトレンチのみ手掘りで調査した。

地表下約30cmの暗灰色土層より、壺口縁部、肩部、高坏脚部などの弥生土器片が多数出土した。なお、遺構は検出されなかった。



第16図 市谷地区5区トレンチ位置図

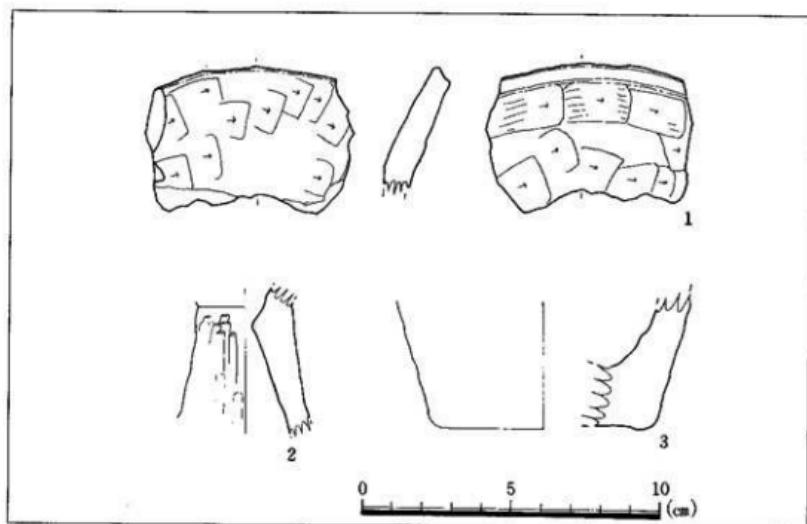


図17図 市谷地区5区土器実測図

No	器種	部位	出土区	出土層	調査および文様		胎土	焼成	色調		備考
					外	内			外	内	
1	壺	口縁部	3区	Ⅱ層	ハケ 口唇部…横ナデ	ハケ	径1mm前後の砂粒多く 含む	良好	にぶい緑	にぶい緑	
									Hue7.5YR7/3	Hue7.5YR7/4	
2	高壺	脚部	5区	Ⅱ層	ヘラミガキ	ナデ	径0.5mm前後の砂粒含む	良好	にぶい緑	にぶい緑	
									Hue5YR7/4	Hue5YR6/4	
3	壺	底部	5区	Ⅱ層	ハケ	ハケ	径1mm前後の砂粒含む	良好	にぶい黄緑	にぶい黄緑	
									Hue10YR7/3	Hue10YR7/4	

表3 市谷地区土器観察表

## まとめ

今回の調査では、弥生時代の包含層を確認することができた。包含層の残存状態は、4、5区以外は半分以上擾乱されており、余り良好とはいえない。

遺物は5区に集中して出土しており、ここを中心に遺跡が広がっていくものと思われる。

未調査地点については、同地区北部で年代不詳の五輪塔が十数基出土している。

なお、同地区的調査記録写真についてはカメラの故障のため本報告書には掲載できなかった。

# 図版



図版1 本田地区遠景（西から）



図版2 本田地区作業風景



図版3 本田地区1区1トレンチ（北から）



図版4 本田地区1区集石遺構（北から）



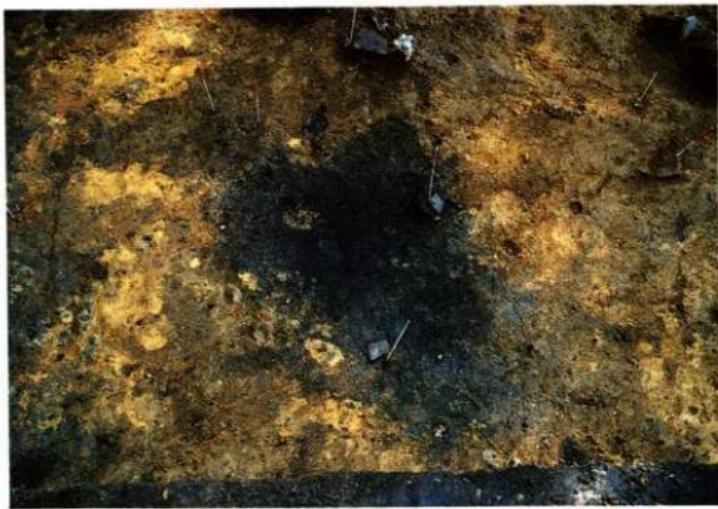
図版5 本田地区3区1トレンチ（南から）



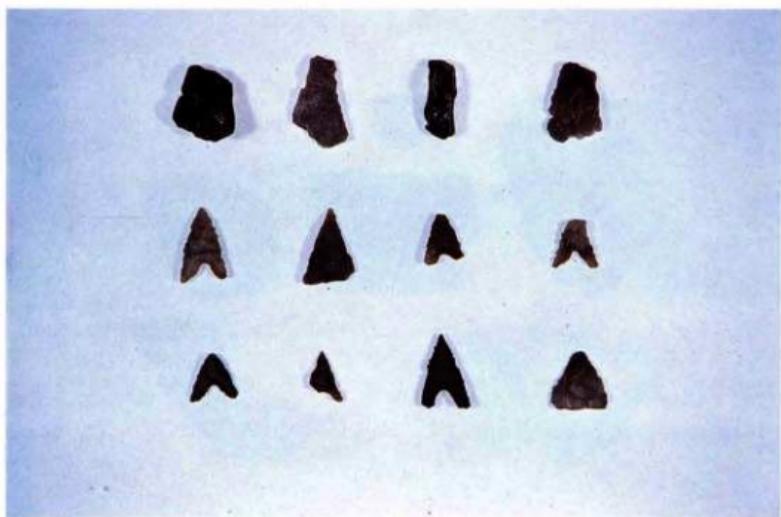
図版6 本田地区3区2トレンチ（南から）



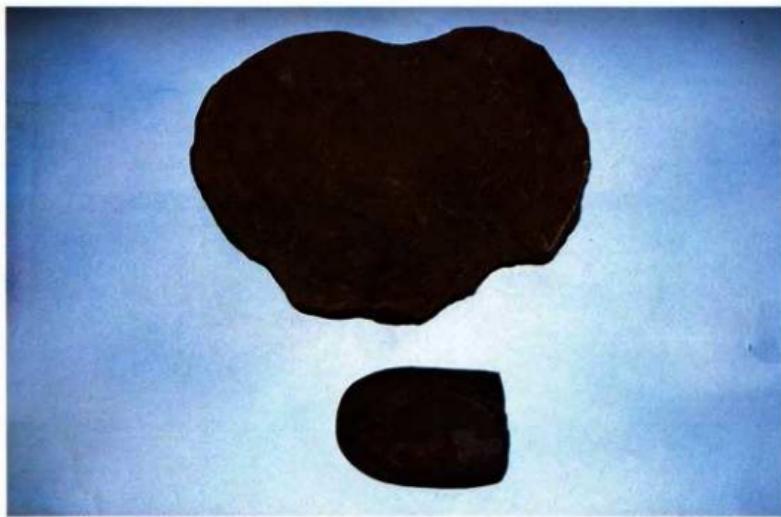
図版7 本田地区3区3トレンチ（南から）



図版8 本田地区3区炉跡（西から）



图版9 本田地区出土遗物（石核、石簇）



图版10 本田地区出土遗物（石皿、石斧）



图版11 本田地区出土遗物（绳文土器）



图版12 市谷地区出土遗物（弥生土器）